

## 大雨と台風第4号通過後の営農技術対策

平成22年8月13日  
北海道農政部

北海道に停滞する前線に向かって、台風第4号から暖かく湿った空気が流入し、前線の活動が活発になり、大雨となったほか、8月12日夜半から13日にかけて台風第4号が北海道に接近し、太平洋側を中心に大雨と暴風等となり、各地で農作物等への影響がありましたので、河川流域における安全などを確認後、以下の技術対策を参考に被害状況に応じた適切な対応に努めてください。

### 第1 共通事項

- 1 ほ場に流入した流木、ゴミ等は、台風の通過後安全を確認して速やかに除去する。
- 2 浸水・冠水により地表面に水が停滞しているほ場では、溝切りなどの排水対策を実施する。
- 3 農業、畜産関係施設の損傷、倒壊等の点検に努め、必要に応じて修復、補強を行うほか、修復等に必要な資材については、早急に必要量を把握し、その確保に努める。
- 4 農業機械が被害を受けた場合は、速やかに必要な点検、整備を行うとともに、今後の農作業に支障が生じないように修理を行う。
- 5 農作物については、病害虫の発生に注意し、適切な防除に努める。薬剤を使用する際には、農薬使用基準を遵守するとともに、食品衛生法に基づく残留農薬の「ポジティブリスト制度」に対応した適時適切な散布に心がける。

### 第2 水稲

- 1 浸水・冠水した水田は、速やかに排水口の解放や畦畔を切る等の排水対策を行う。
- 2 水田に流れ込んだ泥流や土砂は、速やかに排除し、必要に応じて溝切りや明きよを施工し、土壌の乾燥を図る。
- 3 崩れた畦畔や土砂で埋没した用排水路・水口は、水が引いた後、速やかに改修、補修する。
- 4 冠水し穂や止葉に泥が付着している場合は、可能であれば、防除機（鉄砲ノズル）の水量を多くして洗浄する。
- 5 ほ場内に流入した異物などがある場合は、後の収穫作業に支障が無いように除去する。
- 6 倒伏したところは、茎葉のムレや腐敗、穂発芽が発生しないよう、密に溝切りを行い土壌の乾燥に努める。なお、倒伏したところは、良品とは別に収穫する。

### 第3 畑作物

- 1 豆類
  - (1) 浸水・冠水により地表面に水が停滞しているほ場では、溝切りなどの排水対策を行う。
  - (2) 生育が進んで成熟期が間近な場合は、病害虫防除などは特に必要としないが、生育が遅れているほ場や晩生品種を作付けしている場合は、茎葉の損傷部分から斑点細菌病や菌核病などの発生が心配されるので防除を行う。
  - (3) ニオが崩れている場合は、畑に入れるようになり次第積み直す。
- 2 ばれいしょ
  - (1) 浸水・冠水により塊茎腐敗が著しく増加するので、早急に排水対策を行う。
  - (2) でん原用などの晩生品種では、「疫病」や「軟腐病」の発生に留意し、ほ場の乾燥を待つて防除を行う。
  - (3) 収穫期に達したほ場では、土壌が乾燥した後、晴天の日にできるだけ早く収穫し、十分に風乾し、傷・打撲・腐敗・罹病いもを確実に選別して出荷する。
- 3 てんさい
  - (1) ほ場の溝切りなどを行い、早急に停滞水の排除に努める。
  - (2) 強風により茎葉が損傷し、高温・多湿な気象条件で褐斑病の発生が心配される場合は、できるだけ早めに防除を行う。

## 第4 野菜

### 1 トマト

- (1) ハウス内土壌の乾燥を促進するため、ハウス周辺の簡易排水路の整備、通路部分の停滞水の除去、マルチフィルムのまくり上げを行う。
- (2) 草勢を維持するため、葉面散布や摘心を行う。
- (3) 汚水で汚染した葉や果実を除去する。
- (4) 「疫病」、「灰色かび病」、「葉かび病」の病害防除を行う。
- (5) 土壌乾燥後、土壌診断を行い、必要に応じて追肥を行う。

### 2 きゅうり

- (1) ハウス内土壌の乾燥を促進するため、ハウス周辺の簡易排水路の整備、通路部分の停滞水の除去、マルチフィルムのまくり上げを行う。
- (2) 草勢を維持するため、葉面散布、着果節位の適正化を行う。
- (3) 汚水で汚染した茎葉を洗浄、または除去する。
- (4) 「べと病」、「疫病」、「うどんこ病」、「灰色かび病」の病害防除を行う。
- (5) 土壌乾燥後、土壌診断を行い必要に応じて追肥を行う。

### 3 かぼちゃ

- (1) 土壌の過湿で根痛みが発生した場合は、「うどんこ病」の蔓延が懸念されるので、ほ場を観察して適切に防除する。
- (2) 収穫後は、風乾をしっかりと行い出荷時に病害果・腐敗果の混入がないように選別を徹底する。

### 4 だいこん・にんじん・キャベツ

- (1) 土壌の過湿によって、だいこんの裂根や横しま症状、にんじんの裂根、キャベツの裂球等が多発する恐れがある。溝切りなど表面排水に努め、収穫期に達したのからできるだけ早く収穫する。その場合は、品質の劣悪なものが混入しないよう、選別を徹底する。また、「軟腐病」の発生が多くなるので、病害防除を行う。
- (2) にんじんは、肥料が流亡した場合は、黒葉枯病の発生が多くなるので防除を行う。
- (3) 傾斜ほ場など土壌流亡のある畑は、青首の発生が多くなるので、ほ場乾燥後に培土を行う。

### 5 たまねぎ

- (1) 浸水・冠水により「軟腐病」や「貯蔵腐敗」(りん片腐敗病・灰色腐敗病)が発生する恐れがあるので、ほ場の表面排水対策を急ぎ、ほ場の乾燥後防除を行う。
- (2) 収穫前に罹病球を選別除去して、製品への腐敗球の混入を避ける。収穫後は雨が当たらないようにして、風通しの良い場所で風乾をしっかりと行う。
- (3) 腐敗球は、ほ場外に搬出する。

## 第5 花き

### 1 排水・換気対策

- (1) ハウス内土壌の乾燥を促進するため、ハウス周辺の簡易排水路の整備、通路部分の停滞水の除去、マルチフィルムのまくり上げを行う。
- (2) 採花期を迎えている切花ほ場では、土壌過湿が長期化すると品質低下(軟弱化・病害発生)を招くので、ハウスの通風換気に努める。

### 2 病害虫防除

- (1) 病害虫防除に当たっては、土壌やハウス内の過湿により発生の高まる病害を主体に、早めに薬剤防除を行う。
- (2) 薬剤散布後、ハウス内が乾きにくい状況では、少量散布防除機やくん煙剤を利用する。

## 第6 果樹

- 1 病害が発生しやすいため、スピードスプレーヤーが入れるようになり次第、使用基準の収穫前日数を厳守し、殺菌剤の散布を実施する。
- 2 収穫が始まっている樹種は、出荷時に病害果の混入がないように注意するとともに、傷の程度を確認して選別を徹底する。

## 第7 畜産

- 1 飼料作物
  - (1) 雨水の浸み込んだロールベール乾草、サイレージ、冠水したスタックやバンカーサイ口は、飼料分析をするなど品質を確認し、飼料が不足する場合は不足分の確保に努める。
  - (2) 飼料として利用可能と判断できるものでも、大雨の影響を受けたものはなるべく早期の利用に仕向ける。
  - (3) 大雨の影響を受けたロールベール乾草は、発熱する恐れがあるので必ず点検する。発熱したもの、あるいはその恐れのあるものは舎外の安全な場所に仮置きし、安全を確認してから収納する。
  - (4) 経年草地は3日程度の冠水ではほとんど枯死しないが、無冠水に比べ減収し、冠水期間が長くなるほど枯死や減収の程度が増加する。滞水したほ場は、排水溝を掘るなどして排水を促す。また、既存の排水施設に詰まりがないか点検して、排水路を確保する。
  - (5) 新播草地などで冠水により表土が流失して裸地化した部分が大きいほ場は、8月中旬頃までにイネ科牧草の追播を早めに行う。
- 2 飼養管理・衛生管理
  - (1) 浸水した畜舎では、速やかに排水対策を実施するとともに、舎内等の乾燥を促進する。
  - (2) 畜舎内の雨水がひき次第、伝染病や乳房炎などの慢性病の発生を防ぐため、汚染部分を水洗し消毒剤や石灰の散布、石灰乳塗布を行う。
  - (3) 乾草、サイレージ等の飼料は、泥や雨水による変敗がないことを確認して給与する。
  - (4) 停電していた場合は、通電したら直ちに搾乳する。ただし、前搾りを行い凝固物（通称ブツ）の有無を確認し、乳房炎に罹患している場合は治療する。
  - (5) 搾乳に当たっては、搾乳器具、給水設備を十分に消毒するとともに、ミルカー、バルククーラー等の搾乳器具が正常に作動することを確認する。
  - (6) 断水が続いている場合は、サイレージなどの水分の多い粗飼料を中心に給与する。また、放牧が可能であれば水分補給とストレス解消のために放牧地へ放す。
  - (7) 牛の体調を確認して、異常牛はすみやかに獣医師の診断を受ける。
  - (8) 堆肥や尿溜に入った雨水が流出する恐れがある場合は、土盛りなど行い河川汚染を防ぐ。

お問い合わせ先：食の安全推進局技術普及課（電話011-231-4111 内線27-823）